



知性

健康

自主



校章のモチーフ しらね葵

《学校教育目標》

『優れた知性を持ち、健康で心豊かな たくましい生徒の育成』

寒河江市立陵西中学校 学校だより
2023.2月下旬号 文責：校長 小野 行彦

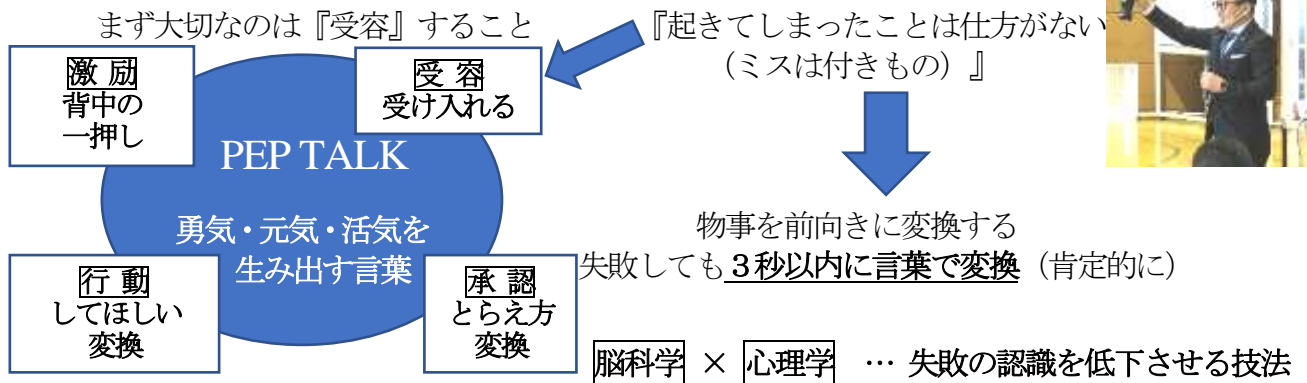
『勇気・元気・活気』を生み出す PEP TALK講演会

2/8(水)、昨年度はコロナ禍のためオンラインで行われた「ペップトーク講演会」が、今年はPTA活動委員会主催により講師を本校に招き体育館で開催されました。「自己肯定感」が持てない、また、持たせることが課題としてあげられる本校の実態から、昨年に引き続き実施されました。当日は加藤PTA会長さんと佐藤活動委員長さんが中心となって進めていただきました。また、生徒と一緒に7名の保護者の方も参加されました。3年生でこれから受験する生徒、発表待ちの生徒、さらには、高校生活に不安を感じている生徒や、1・2年生においても、心配や不安を前向きに捉えられる貴重な講演内容でした。また、先生方も生徒への声かけについての研修となり、とても充実した講演会となりました。

『やる気を引き出す魔法の言葉 ペップトーク』

講師 小野 弘志 先生

(酒田市「ファミリー・カイロプラクティック 院長」)



	ネガティブ	⇒	ポジティブ
1	ミスをするな	⇒	今ある力を全部出し切れ
2	三振するな	⇒	ストレートに的をしぼれ
3	風邪をひくな	⇒	温かくして過ごしてください
4	何ができないの	⇒	何ができるの？
5	滑ってこけないで	⇒	足元に気をつけて

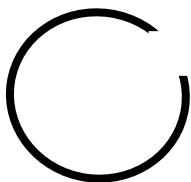
◇日本人が不得意なところ 「自己肯定感」が低い

「私は価値のある人間だと思う？」の質問に対して、あると答えた割合は…

アメリカ・中国 = 90%位

日本 = 45.8%

⇒ 完璧じゃなくてもいいじゃない！ ⇒ 自分にYES



9割〇なのに、1割の欠けているところを注目してしまう
⇒できているところに目を向ける習慣をつける

脳は言葉をイメージしてしまう！ 「失敗」というと失敗を検索
「成功」というと成功を検索

◇実は言葉と合わせて、動作・表情の変化が一番効果がある！

例：プレーで失敗しても、ポーカーフェイス (笑顔が一番)

＋
言葉で「できる できる 必ずできる」◎



ペップトーク講演会 生徒の感想



今年もペップトークの講演会を聴けてとても勉強になりました。小野さんが言ってくれた、「3秒でポジティブにかえる」と聞いた時は、自分にはこれが足りなかったと思いました。また、元気がないときは、物事を良いことに変換していきたいです。それから、家族や友達と本気ジャンケンをやってみます。(3年 男子)

ペップトークで、物事を逆に明るく捉えることが大事なんだと思いました。今あることを素直に受け入れて行動するのは結構いいなあと思いました。マイナスな言葉をポジティブな言葉に言い換えるのは難しいと思うけど、言われてみれば全然感じ方が違うので、すごいなあと思いました。生活の中でそういう言い方で言えるようにできたらいいと思いました。納得することが多かった。(3年 女子)

ペップトークは「勇氣」「元気」「活気」であることを学びました。私はマイナス思考は自動失敗メカニズムなので、自動成功メカニズムであるプラス思考で前向きに進んでいきたいと思いました。また、思考を実現化するために、日頃からポジティブな表現で生活していきたいと思いました。(2年 男子)

今日のお話を聴いて、ネガティブなことを考えるとうまくなかったり、マイナス思考になってしまうので、ネガティブなことを考えるのではなく、「うまくいく」や「できる」ということを考えて明るく過ごしたいと思いました。話を聴いているときに、反応することも自分はできていなかったもので、拍手やうなずきで反応することを、これからは活かしていきたいと思いました。(2年 女子)

今日は初めてペップトークについてのお話を聴いて最初はペップトークについて知らなかったけど、やる気を引き出すコミュニケーションスキルでペップは英語で元気・勇氣・活気という意味だということがわかりました。そして、相手の意見をしっかり受け入れることも大切だということもわかりました。これからもっと、受け入れポジティブな言葉を相手に伝えたいです。(1年 女子)

小野先生のお話を聴いて、僕は初めてペップトークを知りました。先生のお話を聴くにつれて「ペップトーク」は相手に元気や活気などを与える言葉の話し方だということがわかりました。僕は、友達に言うときも、弟に言うときも前向きな言葉を相手に言う時は意識しないと伝えられないので、前向きな言葉をかけられる小野先生はすごいと思いました。今度から僕も前向きな言葉をかけられるように頑張りたいと思いました。(1年 男子)

表彰報告

- 丸山薫少年少女文学賞 「青い黒板賞」 佳作 木村 颯大
- 山形県中体連優秀指定選手 男子バレーボール 競技 岡田 芳昇
- 村山地区アンサンブルコンテスト 銅賞
- 西村山地区バレーボール協会長杯 第2位 男子バレー部 第3位 女子バレー部

2月後半・3月の主な予定

2/21	火	3学期期末テスト
3/1	水	2学年進路説明会
3	金	第4回学校運営協議会
6	月	職員会議
7	火	公立高校一般入試
8	木	3年生臨時日課(~13) SDGs講演会
13	月	修了式
14	火	第46回卒業証書授与式
15	水	1・2年臨時日課(~17)
17	金	公立高校合格発表
18	土	年度末休業(~4/5)
24	金	離任式

[卒業証書授与式についてのお願い]

先日、岸田首相より新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けを5/8より、これまでの2類から5類へ引き下げることが発表され、その後3月の卒業式においても「マスクを着用しないことを基本としたい」との報道がなされました。本来であれば、コロナ禍も含め、日頃から大変お世話になっている方々をたくさんお呼びして、これまでのご支援に対して感謝の意を表するとともに、卒業生の門出をお祝いしていただくところではありますが、式後の卒業生や在校生の活動の安定と、陵西中学校区の特性を勘案し、参加者は卒業生及びその家族2名まで、在校生は2年生と1年生代表とし、その他の1年生は教室でリモートによる視聴参加。来賓については学校運営協議会の方々、教育後援会の会長と副会長、そして、教職員としました。これは体育館内での、参列者の距離を確保するとともに、今年度の卒業生は自身の中学校入学式の経験がない学年であったことを勘案し、考慮したものです。どうか、この対応に対してのご理解とご協力をお願いいたします。

来年度から始まる「部活動改革」 ～部活動の地域移行って何？～

昨年3月にスポーツ庁から『部活動改革』として出された「部活動の地域移行」が、寒河江市においていよいよ来年度から始まります。当初のスポーツ庁の計画では、令和5年度から7年度までを「改革集中期間」とし、令和8年度から完全実施としていましたが、その後、各自治体の実態から「推進期間」へ変更されましたが、背景にある生徒と教員の実態には変わりはなく、可能な自治体ができるところから進めることとなっています。それらのことをうけ、本校でも、生徒の意向にあった地域での活動が可能などから進めるために、来年度の新生徒から『部活動の任意加入』を進めます。2/7のPTA委員会において、学校長より保護者の方々へ説明を行い、その後生徒へも伝える予定です。

この取り組みの目的や背景、実施についてご説明いたします。なお、「部活動の地域移行」との表記のため、地域の方々に「中学校の部活動が地域に移る」との誤解をしている方もいらっしゃるようです。正しい内容は「生徒が運動や文化活動を地域の諸団体で行う」ことを意味し、決して、これまで部活動で行ってきた内容や役目を地域に移行するというものではありません。中学校における部活動は存続します。徐々に土日や祝日の部活動の活動が減っていく予定です。

部活動改革の目的

生徒にとって望ましいスポーツ環境

- ・自分の希望するスポーツを地域で自由に選択できる環境づくり
- ・自分の目標や競技力等に応じた団体が満足できる活動ができる(場所・人数・頻度等)環境づくり
- ・専門的な指導者から指導を受けることができる環境づくり
- ・様々な種目を体験できたり、休日は休養日としたりすることを選択できる環境づくり等々

(主体的な活動による多様性の尊重)

教員の働き方改革

- ・教員が休日に部活動指導に携わらない環境づくり
 - ・休日のスポーツ指導者を希望する教員は、兼職兼業届により指導することができる環境づくり
- ◇部活動の位置づけ
学習指導要領においては、教育課程外(教科指導を休日・祝日に行わないのと同じように、部活動もしなくともよい)の学校教育活動。
生徒の自主的、自発的な参加による活動なので、任意加入が前提。

背景にあるもの

- ① 少子化により、これまでの部活動の運営が難しく、廃部や整理統合の部が出てきている。これからはすすむ見通し。
- ② より専門性の高い指導を求めたり、在籍校にはない活動を希望したり、外部団体での活動を望む生徒が増えている。
- ③ 指導する教員(顧問)への要求が多岐にわたり、必ずしも専門性を有している教員が指導するとは限らず、教員の負担が大きい。
- ④ 教員の長時間勤務の要因になっていることが多い。〔部活動指導は教育課程外〕
- ⑤ 生徒を抱え込みすぎていた学校部活動。〔持続可能ではない活動〕⇒ 教員を志す学生の減少
- ⑥ 教員の働き方改革〔望ましいワーク・ライフバランスの見直し〕
- ⑦ 生徒も教員も主体的な生き方への変換

国の部活動改革を踏まえた山形県の対応について

部活動は、近年の少子化の進展や教員の恒常的な時間外勤務を背景に、将来に向けて持続可能な運営が困難になると見込まれている。政府は、こうした状況を打開するため、中学校における部活動を段階的に、地域に移行することを内容とした部活動改革を打ち出した。

これをうけて山形県教育委員会では、この改革について、単に部活動を地域に移行するだけでなく、地域の実情に応じて地域スポーツのあり方を見直し、地域住民が将来に渡り持続的にスポーツに親しめる環境づくりを目指した取り組みであると捉えている。

県教委は、国の部活動改革の考え方を踏まえ、本県における部活動改革の基本的な考え方について、市町村や関係団体と共有した上で、取り組んでいくとしている。

地域移行のメリットと考えられること

- ・自らの意志で活動を選択することによる主体性の育成
- ・スポーツの掛け持ちがしやすくなる
- ・参加大会が増える
- ・上下(先輩後輩)関係が緩和される
- ・指導者が変わりにくくなる
- ・専門的な指導を受ける機会が広がる
- ・教員の本来の業務にかかる時間の確保
- ・部活動に入っていない子どものケアが充実する
- ・教員のプライベート時間が増える

寒河江市の部活動改革について

【最上位目標】

『生徒の主体性を育む活動を支援する』

【寒河江市の方針】

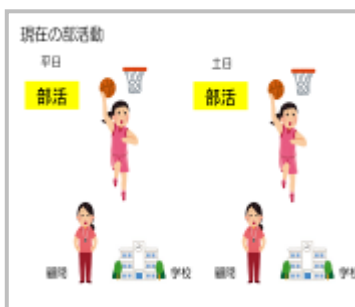
- 令和5年度の部活動について、新1年生は任意加入とする。
- 令和8年度より、学校の部活動は、平日のみ行う。平日の部活動の指導は、顧問（教員）が行う。
- 令和8年度より土日の生徒の活動は、学校外で行う。令和5～7年度までは、土日の部活動の回数を段階的に減らしていく予定。
- 学校外でのクラブ等の活動は、原則、受益者負担で行う。
- 教員が地域のクラブ等で指導する場合は、「兼職兼業許可申請」を行い、市教委の許可が必要となる。

令和8年度からの土日の生徒の活動について

- 学校部活動は、平日のみとし、土日は原則行わない。
- 休日の活動は、活動を希望する生徒の自主的な活動。
- 学校の顧問（教員）は、地域クラブの活動には、原則関わらない。
- 休日の活動を希望する生徒は、地域での新たな活動としてクラブ等に所属するなど、自由に選択して活動する。
- 地域スポーツクラブや地域の活動（以下：クラブ等）には、経費が発生する（受益者負担のイメージは塾・スイミング等）
- クラブ等に参加する際は、運営方針、保険加入、指導料等が発生することなどの理解が必要。
- 各市町村は部活動改革を検討する組織において、休日に活動することを希望する生徒のために、活動している部活動の種目を中心に、休日にも活動できる環境整備について、地域の特性を踏まえながら弾力的に検討していく。

土日の部活動の地域移行後の生徒の活動例

	平日	土日・祝日
活動例①	部活	所属なし
活動例②	部活	クラブ等（地域）
活動例③	クラブ等（地域）	クラブ等（地域）
活動例④	クラブ等（地域）	所属なし
活動例⑤	所属なし	クラブ等（地域）
活動例⑥	所属なし	所属なし



今後の陵西中における進め方

これまで本校では、右のような流れで説明を進めてまいりました。実施に当たっては、これまでの学校部活動において育まれてきた力と経験の有用性やこれからの社会で必要とされる「主体性」のあり方をふまえ、来年度入学生から「任意加入制」を導入いたします。2・3年生については、原則、これまで活動してきた部活動を継続することを勧めてまいります。これまで同様、本校にはない活動を望む生徒は校外での活動を許可し、部活動以外への所属を認めます（校内部活動を望まない生徒は、本校部活動の所属は必要ありません）。また、心身の不調やその他の理由により、部活動の継続が望ましくない生徒においても所属は必要なしとしていきます（本人、家族と十分に話し合った上で決定）。

土日の活動（地域移行）については、基本的に右下の表にあるような寒河江市の計画に沿いながら進めてまいります。寒河江市立中学校としての最上位目標が「生徒の主体性を育む活動」であり、そのためには、この改革の目的の一番目に位置づけている「生徒が希望するスポーツを地域で自由に選択できる環境」の存在が不可欠ですので、陵西中生にとって必要な活動の場の状況を確認しながら適切に実施してまいります。

- 1/24 学校運営協議会で説明
- 1/27 学区小中学校長連絡協議会で説明
- 2/7 PTA 委員会で説明
その後、全保護者へ周知
- 2/15 全校朝会で生徒へ説明
- 2/18 「高松地区 地域懇談会」で説明

	R5	R7	R8	R9
活動なし				
地域のクラブなど				
教員				

〇枚から、完全実施とするために、再編を見ながら徐々に活動回数を減らす。
※中体連の取り組みを見ながら、適宜設定していく。